

## 2023年度 小委員会活動成果報告

(2024年2月7日作成)

小委員会名	環境振動予測検証小委員会	主査名：緒方 誠二郎 就任年月：2023年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境振動運営委員会)	委員長名：大岡 龍三 主査名：富田 隆太
設置期間	2023年4月 ～ 2025年3月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>環境振動の予測に必要な検討手法、分析手法、解析手法などの集約化・共有化を図り、予測の精度向上や簡便化に役立てることを目的とする。特に、実務者が困っている点の対応に重点を置いた検証を行い、成果を会員に公表して環境振動問題の改善に寄与する。</p> <p><b>初年度：</b> 前身までの当小委員会で実施してきたブラインド解析のまとめや、委員が業務で直面している環境振動の予測に対する話題提供を行い、2016年に調査・報告した環境振動の実務者が困っている以下の事項に応えていくための活動方法や内容を定める。</p> <p style="margin-left: 20px;">① 目標値・安全率の設定（設定根拠を説明できる指針等を要望） ② 加振力の設定・実測（データの蓄積やデータベースの公開を要望） ③ 応答予測モデルの妥当性確認（特に地盤のモデル化）</p> <p><b>2年度：</b> 引き続き初年度に定めた活動を実施し、会員に公表すべき内容を作成し、その技術情報を会員に公表する。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <p>主査：緒方 誠二郎 (鹿島建設) 幹事：山中 祐一 (JR東日本建築設計) 幹事：佐野 泰之 (愛知工業大学) 委員：片迫 幹男 (フリーランス) 委員：佐伯 兼久 (フリーランス) 委員：杉田 朋哉 (積水ハウス) 委員：鈴木 健司 (戸田建設) 委員：田中 靖彦 (安藤・間) 委員：中野 春彦 (大鉄工業) 委員：野寄 真徳 (鉄道総合技術研究所) 委員：船積 宏彰 (東急建設) 委員：増田 圭司 (フジタ) 委員：松永 裕樹 (竹中工務店) 委員：丸尾 純也 (戸田建設) 委員：三橋 祐太 (構造計画研究所)</p>	
設置WG (WG名：目的)		
2023年度予算	25,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s17/subcommittee3_control/AIJ_EVSC3index.html">http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s17/subcommittee3_control/AIJ_EVSC3index.html</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	6回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	

大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年6回の開催を達成予定（現時点で5回達成、次回は3月）であり、各委員が業務で直面している環境振動の予測に関して問題を共有し、解決に向けた意見交換を実施できた</li> <li>2. 2016年に調査・報告した環境振動の実務者が困っている事項に応じていくための方法について議論した</li> </ol>
委員会活動の問題点・課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境振動運営委員会内の他小委員会との連携</li> <li>2. 小委員会成果の公表方法</li> </ol>

\*中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

## 2023年度 小委員会活動 自己評価 (中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>1. 予算が少ない中でも遠方に在住の委員はWEB会議で積極的に小委員会に参加し、2023年度の開催目標であった6回の小委員会を開催できた。全ての回で10名以上の出席があり、非常に高い出席率の中、有意義な議論ができた</p> <p>2. 当小委員会の委員は民間企業の委員が多いため、業務上ぶつかった問題などは秘密保持の面から共有し辛い面があったものの、各委員が小委員会での報告および議論のために限られた時間の中での努力した結果、問題を委員の間で共有できた</p> <p>3. 環境振動シンポジウムの企画案について、環境振動の予測及び検証の視点から全委員で議論できた。この議論内容から来年度以降の環境振動シンポジウムへの企画提案の下地ができた</p> <p>以上より、本年度は環境振動問題に関する予測方法や知見に関する共有が進み、目標を達成したと判断できる。</p>			

●総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。

●中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。

A評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度

B評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度

C評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度

D評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度

●小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。

●提出対象年：設置期間4年の場合は、2年目「中間年度評価」、4年目「最終年度評価」(1年目・3年目不要)

設置期間3年の場合は、2年目「中間年度評価」、3年目「最終年度評価」(1年目不要)

設置期間2年の場合は、1年目「中間年度評価」、2年目「最終年度評価」

設置期間1年の場合は、1年目「最終年度評価」